卒業論文

インカレサークルにとっての他大学メンバー：必要性と低関心のパラドックス

2014 年度入学

九州大学 文学部 人文学科 人間科学コース

社会学・地域福祉社会学専門分野

2018 年 1 月　提出

要約

本論文では、大学生が、自身の大学ではなく、他大学のサークルに所属する意図は何であるかを明らかにしている。事前に、サークルを 4 類型に分類し、各々に当たるサークルを見つけ、6 サークル、計 16 人に調査協力を依頼した。調査を進めるにつれて、インカレサークルにおいて他大学メンバーは不可欠なはずであるのに、勧誘活動に積極的ではない、という低関心の姿勢が見られた。そこで、当初の目的に加えて、このようなある種のパラドックスがなぜ生じるのか、についても考察した。

他大学のサークルに所属する大学生は、ビラ等を通した勧誘活動によって入部した人が少なく、むしろ、彼らは、友人や先輩といった、親しい人からの紹介によって入部していることがわかった。また、当初は、ほとんどの人が自身の大学においてもサークルに所属していたが、最終的に自身の大学のサークルは辞めて、他大学のサークルに絞っていた。彼らをサークルにとどめたのは、思い切り競技ができる、という面ではなく、雰囲気や居心地の良さ、といったある種の人間関係にあたる面であった。このような面は、サークルの入部時のみではなく、所属し続ける理由にもなる、ということがわかった。

インカレサークルにおいて、他大学メンバーは必要不可欠な存在である。それにもかかわらず、彼らに対して低関心の姿勢を見せる要因として考えられたのが、①過密日程による負担、②SNS 等の存在、③暫定的インカレサークルという形式、の 3 つであった。①は、いわば、スケジュール的な問題である。ほぼすべての大学が、勧誘活動の時期が重なるため、複数の大学において、勧誘活動をするのは限界がある、ということである、②は、情報面の問題である。勧誘活動において用いるビラよりも、サークル専用の SNS の方が情報量は多い。また、これらのサイトには、容易にアクセスができるため、ビラを配るよりも、SNS に頼った方が効率的である、というわけである。③は、組織的アイデンティティの問題である。暫定的インカレサークルは、本論でも解説するが、一時的にインカレサークルの形式を取っているものである。そのため、インカレサークルを維持しよう、という組織アイデンティティが小さいがため、他大学メンバーに対しての関心が低い、というものである。

今回の調査において、インカレサークルの形式を維持していく、いわゆる組織アイ

デンティティが大きいとされる一般的インカレサークル（本論で詳しく解説する）を見つけることができなかった。筆者の力不足もあるが、これは、サークルの特徴ゆえの結果であるとも考えられる。サークルは、他の組織と比較すると、融通がきき、部員の行動に対して、非常に寛容である。これは、サークルの利点として考えられているが、視点を変えると、サークルの形式が容易に変化しうる、ということを意味する。そのため、当初は、インカレサークルとして成立しても、時間と共に、その形式がまったく違うものになることも考えられる。それは、部員たちの行動によるものかもしれないし、外的要因によるものかもしれない。いずれにせよ、サークルという脆い組織においては、インカレサークルという組織アイデンティティを後輩に引き継いでいこうとしても、無理がある、ということである。

最後に、インカレサークルになりうるにもかかわらず、他大学メンバーを勧誘しようとしない潜在的インカレサークル（本論で詳しく解説する）についても、場所の問題と方向性の違いという 2 つの視点から考察している。一般的インカレサークルを発見できなかったこと、また他大学のインカレサークルについて触れることができなかったことは反省点であるが、当初の目的、およびサークルが大学生にとってどのような場となっているのかを明らかにできたことは、非常に有意義なものであった、と考える。

目次

はじめに 1
1　サークルに関する先行研究 3
1.1　サークルの定義 3
1.2　サークルと部活動 4
1.3　九州大学認定サークルについて 5
2　その他の先行研究 6
2.1　選好について 6
2.2　行動科学的モチベーション論 7
2.2.1　マズローの欲求5段階説 7
2.2.2　アージリスの「未成熟―成熟」モデル 8
2.2.3　ハーズバーグの「動機づけ=衛生理論」 8
2.2.4　ブルームの期待理論 8
2.2.5　その他のモチベーション論 9
2.3　サードプレイス 11
2.4　アイデンティティの定義 12
2.5　スポーツの意義 13
3　サークル、インカレサークルに所属する意義 14
3.1　サークルに所属するメリット 15
3.2　サークルに所属するデメリット 16
3.3　インカレサークルに所属するメリット（内部生・他大学生共通） 16
3.4　インカレサークルに所属するデメリット 17
3.4.1　インカレサークルに所属するデメリット（他大学生） 17
3.4.2　インカレサークルに所属するデメリット（内部生） 17
3.5　インカレサークルについての考察 18
3.6　現在の大学生の金銭問題 18
4　調査の設計 19
4.1　調査の目的 19

4.2 調査対象の選定.....20
4.3　調査方法.....21
4.4　調査項目.....22
5　個別分析.....22
5.1　潜在的インカレサークル.....23
5.1.1　しろうとバレー.....23
5.1.1.1　サークルの全体像と調査対象者.....23
5.1.1.2　入部の契機と容易さ.....23
5.1.1.3　インカレサークルへの可能性.....24
5.1.2　九大猫部.....25
5.1.2.1　サークルの全体像と調査対象者.....25
5.1.2.2　入部の契機と意識の高さ.....25
5.1.2.3　インカレサークルへの可能性.....26
5.1.3　アイトップ.....26
5.1.3.1　サークルの全体像と調査対象者.....26
5.1.3.2　入部の契機と意識の高さ.....26
5.1.3.3　インカレサークルへの可能性.....27
5.2　暫定的インカレサークル.....27
5.2.1　フォースレス（フットサルサークル）.....28
5.2.1.1　サークルの全体像と調査対象者.....28
5.2.1.2　入部の契機.....28
5.2.1.3　一般的インカレサークルへの可能性.....29
5.2.2　翼倶楽部.....30
5.2.2.1　サークルの全体像と調査対象者.....30
5.2.2.2　入部の契機.....30
5.2.2.3　一般的インカレサークルへの可能性.....31
5.3　非インカレサークル.....32
5.3.1　九州大学バドミントン部.....32
5.3.1.1　サークルの全体像と調査対象者.....32
5.3.1.2　バドミントン部に所属することにおける負担.....33

5.3.1.3　インカレサークルへの可能性 34
6　考察 35
6.1　サークルに所属する必要性 35
6.1.1　入部の契機 36
6.1.2　サークルにおける人間関係 36
6.1.3　サークルへ行く理由 37
6.1.4　他大学生のサークル事情 38
6.1.4.1　他大学生の入部の契機 39
6.1.4.2　他大学生のサークル選択 39
6.2　インカレサークルにおける勧誘活動 40
6.2.1　他大学生への勧誘方法 40
6.2.2　なぜ矛盾が生じるのか 41
6.3　インカレサークルはなぜ生じにくいのか 43
6.3.1　一般的インカレサークルはなぜ生じにくいのか 43
6.3.2　潜在的インカレサークルについての考察 44
6.3.2.1　場所的な問題 44
6.3.2.2　インカレサークルとの目的の違い 45
6.4　反省・課題 45
おわりに 46
参考文献 47
脚注 49
謝辞 50